

## 二柱の天照大神と饒速日尊

浮かび上がる五芒星（ソロモンの星 晴明桔梗）と  
素盞鳴尊神紋の謎（中編一四）

出口 恒

### 浮かび上がる五芒星

本年七月十七日（土）から十九日（月）にかけて、第三回「日本のルーツの謎解き元々めぐり」で平城京と平安京を訪問します。今月号は、浮かび上がる近畿五芒星の謎に迫る中で、太古の素盞鳴尊の神業やユダヤと日本の関係について考えていきます。

平城京を中心に第二回元々めぐりで訪問した元伊勢皇大神社、そして伊吹山、伊勢内宮、熊野本宮、伊弉諾神社を結ぶと、図一のようにほぼ正確な一辺約百十一

キロメートルの正五角形ができ

ます。その対角線を結ぶと、五芒

星（ソロモンの星）が浮かび上が

り、その各線の長さは百七十一

キロとなります。その中心は今

年千三百年を迎える平城京。内

接する正五角形の頂点と底辺の

中心が平安京と飛鳥京。この図

を最初に発見したのは、HPレ

イラインハンティングの内田一

成氏です。ナスカの地上絵なら

ぬ近畿の五芒星。この五芒星の

謎に迫ることが本論考のテーマ

です。

さて、緯度は、その地点での天

頂の方向と赤道面とのなす角度

で表されます。同じ緯度の点を

結んだ線を緯線と言います。赤

道から北極までの距離は、一万

二キロ。地球の子午線弧全長は

約四万八キロ。それを三百六十

度で除すると、緯度一度は平均

約百十一キロメートルとなり、

近畿正五角形、ソロモンの星の

一辺の長さとも一致します。初期

の地球半径の決定は、紀元前三

世紀のエジプトで、現在のアス

ワンとアレキサンドリアの距離

を測定し地球の大きさを見積り、

地球が球体であることを示した

ことより始まります。

この五芒星の描き主は、太古

のシュメール人のように六十進

法を基本とする数学を確立し、

正確に地球が球体であることを

理解し、中国人の始祖とされる

「伏羲 女か」のようにコンパス

と定規を持ちながら、緯度一度

の長さを正五角形の一辺とし、

五芒星の位置決めをしたので

しょうか。描き主は誰でしょ

うか。

### 五芒星、五つの拠点

さて、ソロモンの星をなす五

つの拠点について説明します。

伊弉諾神宮の起源は、国産み・神

産みを終えた伊弉諾尊が、最初

に生んだ淡路島多賀の地に幽

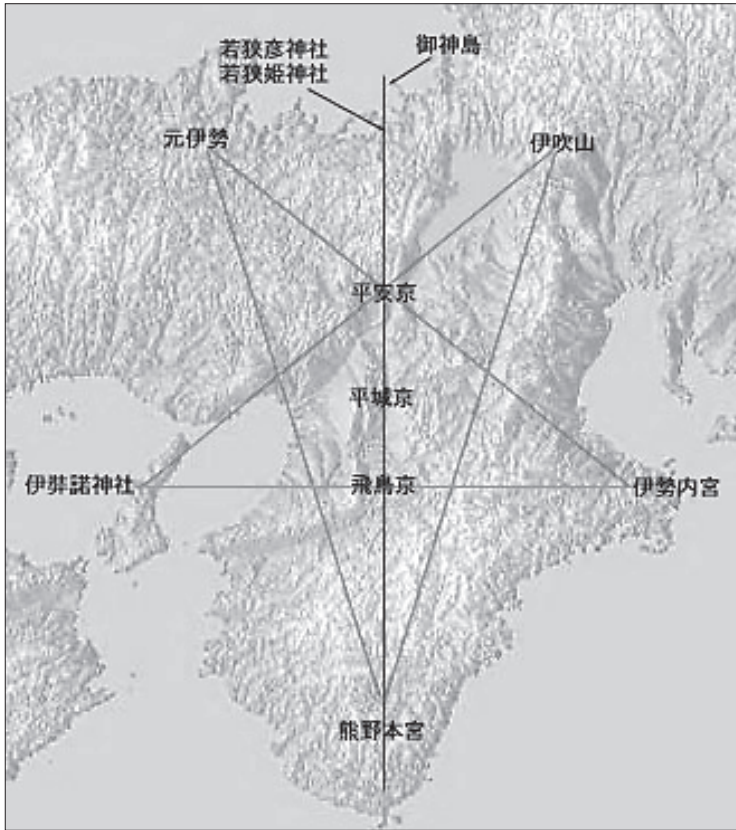
宮（終焉の御住居）を構えそこ

に鎮まつたと記されており、そ

の幽宮を起源としています。記

紀神話では、素盞鳴尊は伊弉諾

尊の神産みにより生まれたとさ



図一 浮かび上がる大五芒星

れます『日本書紀』、『古事記』。伊勢神宮は、三重県伊勢市にある神社。天照大神を祭る皇大神宮（内宮）と豊受大神を祀る別宮、摂社などの百二十五社の総称のこと。元伊勢皇大神社は

福知山市大江町にあります。その地にある天の岩戸神社は、天照大神の天の岩戸籠もりになんでいます。伊勢国南部は大幡主の所領で、大幡主は垂仁天皇の代の伊勢内宮鎮座の時に、自分の所領である櫛田川以東の伊

勢国（三重県）南部を神宮に納めてその地の支配者として神国造となり、大神宮大神主を兼ねたとされます。渡会氏の祖先とされますが、渡会家行延佳は出口氏を名乗っていました。大幡主は大秦主、秦氏と考えます。

熊野本宮の創祀は崇神天皇六十五年（熊野連、大斎原 旧社）において、大きな櫟の木に三体の月が降りてきたのを不思議に思い「天高くにあるはずの月がどうしてこの様な低いところに降りてこられたのですか」と尋ねたところ、その真ん中にある月が答えて曰く、「我は證誠大権現 家都美御子大神//素盞鳴大神」であり両側の月は両所権現 熊野夫須美大神 速玉之男大神である。社殿を創って齋き祀れ」との神勅がくだされ、社殿が造営されたのが始まりとする降臨神話があります「HP熊野古道案内」。熊野三社弥陀と薬師と観音は三つの御魂の権現なりけり。数十年修行を為せと皇神は男装坊（南僧坊）に宣ら

伊吹山は、素盞鳴尊由来の伊勢神宮にあった神剣天叢雲剣を使わず、素手で白い大猪（伊吹の神）と戦った日本武尊の話で知られています。伊吹山は素盞鳴尊の鼻である。「気吹戸にます気吹戸主という神、根の国底の国に気吹放ちてむ。かく気吹放ちては云々」大祓祝詞//神言」という事がある。気吹かれたらエライ事になる「素盞鳴尊の鼻 伊吹山」新月の光下巻』。

「月鏡」。

せ玉へり(「十和田湖の神秘」)

「伊」の文字の秘密

伊弉諾神宮、伊勢神宮、元伊勢皇大神社、伊吹山、熊野本宮、この五つに共通していることは、古事記・日本書紀に登場する神人、素盞鳴尊に関わること。もう一つ重要な鍵は「伊」の文字。太古、世界には三大民族があった。即ちセム族、ハム族、ヤヘツト族である。セムの言霊はストとなり、ハムの言霊はフトとなり、ヤヘツトの言霊はヨとなる。……イスラエルの流れと云ふことがあるが、イは発声音で、スラエの言霊はセとなるが故に、イセ(伊勢)の流れと云ふことになる、即ちセム族の事である(「三大民族」

グループA												
	k	k	q	th	n	f	l	w	h	s	ts	.
ヘブライ語	ק	ק	ק	ת	נ	פ	ל	ו	ה	ס	צ	.
日本語	コ	ク	カ	ト	ノ	フ	レ	ワ	ハ	サ	ソ	ヒ
	ko	ku	ka	to	no	fu	re	wa	ha	sa	so	hi

グループB						
	r	n	w	z	k	a
ヘブライ語	ר	נ	ו	ז	כ	א
母音印をつけた場合	רַ	נַ	וַ	זַ	כַּ	אַ
日本語	ラ	ナ	ウ	ソ	ケ	ア
	ra	na	u	so	ke	a

グループC									
	.	ts	sh	m'	g	i	f'	ri	lu
ヘブライ語	י	צ	ש	מ	ג	י	פ	ר	ל
日本語	ヒ	ス	シ	ミ	ク	イ	フ	リ	ル
	hi	su	shi	mi	ku	i	fu	ri	ru

※この字はヘブライ・アルファベットには載っていないが、「シュマ」の古代ヘブライ印には、はっきりと刻まれている。(2草写真参照)

※※この字はヘブライ・アルファベットには載っていないが、現代草書には使われている。

図二 カタカナはヘブライ語から生まれた!

イセ 伊勢のイ(伊)は発声音。しかし日本語にはイが発声音と化されています。「伊」は文脈上はイスラエルの地の言葉、ヘブライ語が古代に話されたアラム語です。図二は「聖書と日本フォーラム」の副会長 畠田牧師の著書『古代ユダヤから二十一世紀の日本へ』からの抜粋です

のイとなったのかもしれませんが。ヘブライ語とカタカナが十二文字で似ており、またヘブライ語に母音印を付けた場合は、日本語のカタカナに六文字がなりま

す。ヘブライ語を回転させてさらに九文字がカタカナになるなど、日本語のカタカナの半分以上はヘブライ起源ではないか。セム語系のヘブライ語やアラビ

が、日本語のカタカナ・ひらがなの一部はヘブライ語起源の可能性が高いと思います。「伊」の文字の人偏にんべんは例外的に日本語のカタカナア語では子音は意味、母音は文法的事項を現します。文法的事項とは、性、数、格や時制、人称ですね。ヘブライ語を知っている人は、子音だけで想像して母音が補えるので、子音だけの文字が発達しました。ここで発声音が登場するのですが、子音だけの文章を声に出して読むときは、どうしてもa、eもしくはi、oもしくはuの母音を付けて発音する必要があります。意味を持たない、発音のためだけの母音として、伊弉諾神宮、伊勢神宮、元伊勢皇大神社、伊吹山などの「伊・イ」は付加されました。神武天皇の妻であり、大物主大神饒速日尊ニギハヤヒノミコの娘、大和朝廷初代皇后とされる伊須気依姫イサキヨヒメの最初も「伊」、忍者の里「伊賀」

も「伊」ですね。その直接の帰結として、上記いざなぎ、いざなみ、いせなどの言葉は、セム語圏、おそらくヘブライすなわちイスラエル起源ということになります。本年五月号の『神の国』誌で私が記載した、出口王仁三郎聖師の言明「大和民族はイスラエルの方から来た」とは整合性を持つことになります。

エルサレムとしての平安京、  
そして平城京

正五角形をなす五つの聖地の対角線を結べばほぼ正確なソロ



図三 ダビデの星  
六芒星

モンの星。北の交点が平安京京都御所、南の交点が飛鳥京、そして五芒星の中心が平城京。平安京は、七九四年延暦十三年に桓武天皇により定められ秦氏が一族をあげて建設した日本の首都で、平安城ともいい、現在の京都市中心部に位置しました。平安京をヘブライ語になおすと「エル・シャローム」、ヘブライの聖地「エル・サレム」を意味します。平安京のマークはダビデの星で、現在の京都府の府章、市章はダビデの星の変形ではないかとの説があります。平城京は、



図四 京都府章

奈良時代の首都。唐の都長安を模倣して建造されたとされ、現在の奈良市および大和郡山市近辺に位置していました。七百八十年和銅元年には元明天皇により遷都の詔が出され、七百年に遷都。飛鳥京は現在の奈良県高市郡明日香村一帯にあつたと想定される古代都市のうち、飛鳥時代の宮都を指し示す呼称では、五つの拠点のうち四つの神社はいつ創建されたのでしょうか。それがわかるならば、五芒星成立のヒントとなります。

#### 伊勢神宮創建は

キリスト生誕の年

元伊勢内宮皇大神社の創建は、紀元前五九年 崇神天皇三九年に以降。伊勢内宮の創建は垂仁天

皇二六年、紀元前四年または五年。熊野本宮大社は崇神天皇の頃、紀元前三三年頃か、そして伊弉諾神宮の創建は、国産み神産みを終えた伊弉諾尊が、最初に生んだ淡路島多賀の地に幽宮（終焉の御住居）を構えそこに鎮まったと記されており、その幽宮が同社の起源で神代とされます。

伊弉諾神宮は神代創建とされていますが、伊勢内宮、伊勢神宮、熊野本宮大社とも、創建は崇神天皇、または垂仁天皇の時代です。そして伊勢神宮の創建は、紀元前四年、すなわちイエスキリスト生誕の年です。さらにダ

ビデ王の即位が紀元前千四年。イスラエルの首都エルサレムはダビデがエブス人 蝦夷人？か

ら奪い征服した地でした。崇神天皇は御肇國天皇（はづくにしらすすめらみこと）と賛えられてるように、初めて国を治めた天皇とされます。ダビデ、崇神天皇とも建国の主と言えます。

#### ダビデ即位千年後に

##### 誕生したイエス

わたしイエスは使いを遣わし諸教会のために以上のことをあなたに証した。わたしはダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である「ヨハネの黙示録二十二章『新約聖書』」。

二十二は王仁を現す数。紀元前千四年のダビデの即位からちょうど千年目、ダビデのひこばえ（若木子孫）であるイエスキリストが紀元前四年に生誕し、

同年に天照大神を祭る伊勢神宮

が創建されました。ダビデはエルサレムにイスラエル神殿を計画し、その子ソロモンがイスラエル神殿を完成させました。同様に崇神天皇の時に天照大神を祭る神社がその鎮まる地を求め、

垂仁天皇の時、伊勢神宮がキリスト生誕の年、伊勢の地に創建されました。王仁三郎聖師によると伊勢はイスラエルの魂返しとなります。伊勢神宮はエルサレム神殿に相応します。

『霊界物語』では、前六月号で記載しましたように、玉守彦たちはエルサレムに美しい宮殿を作り、神界における三種の神宝のひとつ、黄金の玉、黄金の釜と一体（国魂）を安置したとあります。そこは十六菊の紋章を持

つエルサレム宮殿でしょうか。

ダビデとソロモン王は  
崇神と垂仁天皇

ダビデやソロモン王の旧約聖書での記述と、日本神話の記述は下記の点が符合します。

一、崇神天皇の代に悪疫が三年続き、人口の半分が死んだ

が、ダビデ王の時代にも三年間の旱魃があり、その後の悪疫で七万人が死んだ。両方の王は、その惨状に責任を感じ、神にお伺いを立てている。

二、ダビデ王の軍隊はエドムのシア山で戦った。崇神天皇

の軍隊はイドミの山城で戦った。

三、約束の地にイスラエル人が

定着してからは、あまり活動実績のない王の時代が五

百年以上も続き、その後、ダビデが王位についている。

日本神話でも神武天皇の死後、あまり活動実績のない王が五百年以上続き、その後、崇神天皇が王位についている。

四、ダビデ王の死後、息子のソロモンが王位を継承し、最初のヘブライ寺院を今のエルサレムに建てた。崇神天皇の死後、息子の垂仁天皇が継承し、最初の神宮を伊勢に建てた。

五、ソロモン王はハマトに穀倉を建てた。垂仁天皇は久米の村に穀倉を建てた。佐野雄二『聖書は日本神話の続

きだった！』ハギジン出版)

崇神天皇の事跡はダビデ王、垂仁天皇の事跡はソロモン王の反映。あるいは崇神 垂仁天皇はダビデとソロモン王だったのか。記紀を編纂した人たちは少なくとも原始、あるいはネストリウス派キリスト教、またはユダヤ教を熟知していた。あるいはその教徒だったのか。

紀元千年のひらきあり

紀元前千四年のダビデ王即位と、紀元前四年に当たるダビデのひこばえキリストの生誕年、伊勢神宮創建年には、ちよつど千年に亘る差があります。

紀元千年のひらきあり。キリ

ストの神が本当の神である「紀元』新月の光上巻』。

イスラエルが伊勢に当たるな

らば、エルサレム神殿の神・伊勢神宮の神はエホバです。キリスト教の三位一体説によれば「父と、子なるキリスト、聖霊」は一体『キリストの神が本当の神である』ならば、伊勢神宮内宮で祭る神は、伊勢内宮の創建の年に生まれたイエス・キリスト。創建年の正確性には疑問があります。創建年の伝承を通して、伊勢の神が三位一体である父エホバ、子イエスキリストであることを示したのでしょうか。

神須佐之男の大神

三つ巴の神紋

霊鷲山(高熊山)は磐樟彦(聖地亀岡天恩郷の主)が修業の

霊場にして、天神地祇の中に

ももつとも先見の明ある神々のひそみて時を待ちたまふ神仙境

なれば、等閑に附すべき所にあらずとし、磐樟彦は諸神司と議

り霊窟のほとりに大宮柱太敷く造宮し、神人らの修業所として

鄭重に設備をほどこし、三つ巴の神紋は、社殿の棟に燦然として朝日に輝き、夕日に照り映え

じつに壯観をきはめたりける(「神霊の遷座」霊界物語」三巻

一八章)。霊窟のほとりに立てられた大宮が高御座山(高熊山)にあつた太古の小幡神社。その証

が小幡神社神紋、三つ巴です。当社の祭神は開化天皇様で、

延喜式内の旧い由縁のある宮で、

「屋根には十六の菊の御紋と、三つ巴の紋」が付けてあります

(「開化天皇の御神業」新月の光

上巻』。三つ巴の神紋はいかなる神の紋でしょうか。

春がすみ柵引き初めてコーカスの、山の尾の上や百の谷、大峡

小峡の樹々の枝、黄紅白紫いろいと、咲きみだれたる顕国、

霊の御舎雲表に、千木高知りて聳え立ち、黄金の蓋三つ巴、か

がやく旭日に反射して、遠き近きに照りわたる、神須佐之男の大神は、宮の主と現れまして

……(「顕国宮」霊界物語」十巻二四章)。三つ巴が素盞鳴尊

の御神紋。三つ巴の神社の祭神は本来、素盞鳴尊であるべきで

しょう。顕国宮は顕国玉の宮であり、コーカス山に建てられ、祭

神は国常立神と金勝要の神で、宮の主は素盞鳴尊。飯成の宮と



も称えられました。稲荷の語源となるもので、稲荷信仰は秦氏が始めたものです。

さて、五芒星の「伊」が発声音でユダヤ由来とするならば、そのルーツはどこにあるのでしょうか。『霊界物語』では、神素蓋鳴大神が産土山に建てた霊場、三五教の中心地として、神を齋祭る齋苑の館があります。その齋苑の館が「伊祖の館」の外に「伊祖の神館」と記載されている個所があります。『霊界物語』を読み解くうえで最も大切な箇所のひとつ『霊界物語』四七巻総説です。

伊祖の神館とはどこか  
主の神は宇宙一切の事物を濟度すべく天地間を昇降遊ばして

その御魂を分け、或いは釈迦と現れ、或いは基督となり、マホメットとなり、その他種々雑多に神身を変じ給ひて天地神人の救済に尽くさせ給ふ仁慈無限の大神であります。……この『霊界物語』には産土山の高原 伊祖の神館」に於て神素蓋鳴尊が三五教を開き給ひ数多の宣伝使を四方に派遣し給ふ御神業は、決して現界ばかりの物語ではありません。霊界即ち天国や精霊界中(有界)や根底の国まで救ひの道を布衍し給うた事実であります(「総説」『霊界物語』四七巻二章)。

伊祖の神館とはどこでしょう  
か。「伊祖」とはユダヤ民族の祖とも読めます。伊祖とはエホバ・天御中主神、国常立命。そして主

神ス神という意味においては、神素蓋鳴大神でしょうか。先代旧事本紀訓註での神素蓋鳴大神の諡名は、神祖熊野大神奇御食野主尊。神祖、かむろぎなので、伊祖を含むすべての神の祖となります。産土山の究極は、聖師の産土の神小幡神社のあるところ、すなわち高熊山でしょう。しかしここでは聖師の歌に注目します。

大毘毘の神の命 開化天皇のあれまさむ世は近づきぬこの地の  
石の上ふるきゆかりのあらわれ  
て世人おどろく時近みかも  
「開化天皇の御神業」新月の光  
上巻』。  
「伊祖の神館」とは、奈良県天

理市にある石上坐布都御魂神社、通称石上神宮ではなかったか。石上神宮の創建は崇神天皇七年、紀元前九十一年とされ、子の垂仁天皇二六年、紀元前四年とされる伊勢内宮皇大神宮より一世紀近く古い。そして日本書紀では、石上神宮と伊勢神宮のみが「神宮」とされていましたが、政治的に取り消されたのです。

持統天皇六年二月 六九二年)に天皇として初めて伊勢神宮に行きたいとした持統天皇に、大神神社左大臣三輪高市麻呂が官位を脱ぎ捨ててまで反対した後、大宝二(七百二)年二月十七日、高市麻呂は長門守に左遷され、同年八月十六日、石上神宮 饒速日尊一族を祀る石上朝臣麻呂も

太宰府に左遷されました。その時点で天照大神は大物主大神饒速日命から、女帝の持統天皇、あるいは卑弥呼を反映した天照大神に換骨奪されたのかもしれない。

### 神紋調べ

さて、三つ巴を持つ神社は前頁記載のように素盞鳴尊起源です。日本の主要神社の紋を調べてみます。

さて、小幡神社は祭神が開化天皇、八幡宮は応神天皇を祀るとされたので十六菊の紋の使用



図五 素盞鳴尊  
三つ巴の神紋

が許可されています。しかし両社とも神紋は三巴です。素盞鳴尊を祭る熊野三社、熊野本宮神社、熊野速玉神社、熊野那智神社（和歌山県）は三巴の神紋。この論考のテーマである饒速日尊（天火明命）を祭る籠神社、大物主命を祭る、奈良研修で訪問する日本最古の神社大神神社、同じく素盞鳴尊を祭る八坂神社（京都）も三つ巴です。

ここで興味ある名前の神社が見つかりました。祭神を天照國照彦天火明尊、すなわち饒速日尊とする伊勢天照御祖神社（久留米市）です。私は神の国誌

二十十年一月号で、謡曲三輪から、伊勢の神（天照大神）が三輪の神（大神神社の神大物主大神）から来たことを記しました。大

物主大神と饒速日尊はともに同名の娘神、伊須気依姫を神武天皇に嫁がしていることから同神ですが、饒速日尊を祭る同社は、伊勢の天照大神が本来は饒速日尊（幼名大歳神）であったことを証し立てるために名付けられたのでしよう。

二柱の天照大神と饒速日尊、このメインテーマの舞台のひとつを成す奈良県石上神宮の神紋は上がり藤です。祭神は、最も古い神宮ですが三つ巴でなく、布都御魂大神、神武天皇東征の際に、熊野の高倉下を介して天皇に奉られた剣、布留御魂大神十種の神宝の神気、布都斯魂大神（素盞鳴尊が八岐大蛇を斬った十握剣）となつていま

付録系図では、布都御魂大神は素盞鳴尊の父神とされています。素盞鳴尊が八岐大蛇を斬った「布都御魂」の剣（十握の剣）は、崇神天皇の御代に、その剣は、石上布都魂神社から大和国の石上神宮へ移されたことになっています。石上布都魂神社のご神紋

は、五三の桐を円で囲ったものですが、神社名鑑では三つ巴となっています。御祭神は素盞鳴尊。伊勢神宮と並んで日本最古の神宮とされる石上神宮の真実の祭神は素盞鳴尊であり、本来は『靈界物語』で示されたように、三つ巴であった。しかし十種の神宝を授けられた、天津御祖素盞鳴尊の御子神とされる饒速日尊（布留御魂の霊）を祭ること

を秘匿するために、神紋や祭神



名を変えた。皇祖神が饒速日命であることは天皇家の根幹を揺るがします。

天王社は、素盞鳴尊を祭神として全国に三千を数えますが、

その総本社は愛知県津島市の津島神社（津島牛頭天王社）です。

嵯峨天皇は八一〇年正月に「素盞鳴尊は即ち皇国の本主なり、

故に日本の総社と崇め給いしなり」として、「日本総社」の号を

津島神社に奉られます。三種の

神器のひとつ、天の叢雲の劔は

素盞鳴尊由来であり、一条天皇

が正暦年間（九九〇年〜九九四

年）には、天王社の号を贈られたのはふさわしいと考えます。

三つ巴の神紋を持っている主

要神社は他に鹿島神宮（鹿嶋市）、石清水八幡宮（京都市）、宇

佐神宮（宇佐市）、貴船神社（京都市）、鏡作坐天照御魂神社

（奈良）、菅崎宮（福岡市）、大貴

己神社（福岡県）、白山神社（糸

魚川市）、飛鳥坐神社、（奈良

県）、大山神社（島根県）、住吉大

社（大阪市）、西の宮えびす神社

（西宮市）、寒川神社（神奈川

県）、大山祇神社（村上市）、愛宕神社

（元愛宕）（亀岡市）。これらの神

社は、その子神である饒速日尊

を含めて名前は変えても神須佐

之男の大神を祭っているのでは

ないか。

太古に日本を統治していたの

は、皇祖素盞鳴尊ではなかった

のか。神祖は素盞鳴尊であり、伊

祖でもあります。

『霊界物語』には産土山の高原

「伊祖の神館」に於て素盞鳴尊

が三五教を開き給ひ数多の宣使を四方に派遣し給ふ御神業は、決して現界ばかりの物語ではありませぬ。霊界即ち天国や精霊界（中有界）や根底の国まで救ひの道を布衍し給うた事実であります……。

石上神宮は真実の祭神を秘匿した時点で伊祖の神館としての機能を失いました。現代の「伊祖の神館」、すなわち素盞鳴尊を祭る世界中心地点は、愛善苑と、愛善苑発祥の地であり、聖師晩年の住居、十和田湖の竜神伝説を

バックアップする、聖師が名づけた熊野館と考えます。しかし聖地もまた絶対でなく、移りえるものゆえ、ゆめゆめ神教を怠つてはならないと思います。

素盞鳴尊が太古において、日

本を統一していたのだと、神紋調査から確信を得ました。浮か

び上がる五芒星と素盞鳴尊。こ

れらの仕掛けが可能であったの

は秦氏か。その検証は別稿でい

たします。日本全体の素盞鳴尊

のレイライン、御来光の道もま

たご紹介します。なお七月に訪

問するキリスト教の三位一体を

意味する蚕の社の、謎の三柱鳥

居の写真を末尾に掲載させてい

ただきます。



図六 蚕の社  
三位一体なす謎の三柱鳥居